

平成 22 年度 市教研「小・中連携研修会」(長田中グループ)報告

鹿児島市立名山小学校

長田中グループ	長田中学校 名山小学校 大龍小学校 草牟田小学校	平成 22 年度会場校	名山小学校
---------	-----------------------------	-------------	-------

1 長田中グループ研究主題

児童・生徒が豊かな人間性を持ち、共に学び、共に育つための小・中連携はいかにあるべきか。

2 研究主題設定の理由

子どもたちの心の問題、生徒指導上の諸問題は、道徳教育や人権教育あるいは基礎学力の指導の充実により、相当程度解決が図られるものと考えられる。これら学習、生徒指導の具体的な手立てについては、小中双方の教育の独自性と発達段階について情報交換し、理解を深めていくことが大切だと考え、本主題を設定した。

3 研究の視点

- (1) 実態把握と情報交換のあり方
- (2) 家庭との連携による宅習指導
- (3) 子どもの体験活動の確保
- (4) カウンセリングマインドを生かした生徒指導

4 研究計画

期 日	会 名	場 所	内 容 等
6 月 9 日 (水)	小・中連携研修会	名山小学校	授業参観, 分科会 全体会

5 出席者

学校名	授業参観に出席可能	分科会に出席可能	全体会に出席可能
長田中学校	7 人	7 人	7 人
大龍小学校	1 人	1 人	1 人
草牟田小学校	1 人	1 人	1 人
名山小学校		1 8 人	2 3 人

6 日 程

(1) 日 時

平成22年6月9日(水) 14:00～16:35

(2) 内 容

日 程		内 容	
14:00	受 付 (中央玄関前)		
14:10	授業参観	普通学級 13学級	日本語教室 3教室 ことばの教室 2教室
14:55	移 動	分科会会場へ移動	
15:05	分 科 会	生徒指導 分科会 【校区公民館2F】 協議題：「心に届く生徒指導のあり方」 進行：米山 亜矢 (名山小) 司会：鶴川 宗俊 (名山小) 記録：野間 美智子 (名山小) 指導：佐保 孝 (長田中校長)	<会 順> 1 開会のことば及び 係紹介 2 自己紹介 3 協 議 ・ 各校からの報告 ・ 意見交換 ・ まとめ 4 指導助言 5 閉会のことば
		学習指導 分科会 【理科室】 協議題：「確かな学力を身に付ける 学習指導のあり方」 進行：下迫 瑞輝 (名山小) 司会：東山崎 洋一 (名山小) 記録：曾我部洋子 (名山小) 指導：宮下 守 (名山小校長)	
15:50	校区公民館2Fへ移動		
16:05	全 体 会	進行：荷服 和男 (名山小) 司会：豊田 純司 (名山小) 記録：北山 みさと (名山小)	<会 順> 1 開会のことば (進 行) 2 各分科会からの報告 (記録者 各分科会3分) 3 質疑・意見交換 (司 会) 4 講 評 (山田 恭久 大龍小学校長) 5 閉会のあいさつ (宮下 守 名山小学校長) 6 閉会のことば (進 行)
16:35			

(3) 授業参観 (教科・単元・題材等一覧表)

学級・教室	指 導 者	教科等	単元・題材等	場 所
1年1組	野間 美智子	算数	たしざん(1)	A棟2階
1年2組	北山 みさと	生活	がっこうたんけんをしよう	A棟2階
2年1組	田原 義文	算数	3けたのたし算とひき算	B棟2階
2年2組	荷福 和男	算数	ひき算のひっ算	B棟2階
3年1組	遠竹 伸一	総合的な 学習の時間	水族館調査隊 (ローマ字入力)	A棟2階 (コンピュータ室)
3年2組	曾我部 洋子	算数	かけ算のひっ算	B棟3階
4年1組	下迫 瑞輝	算数	角	B棟1階
4年2組	豊田 純司	算数	角	B棟3階
5年1組	中屋敷 淳 後藤 智子 東山崎洋一	算数	単位量当たりの大きさ (習熟度別指導)	B棟1階 (5の1, 5の2)
5年2組				A棟3階 (図工室)
6年1組	鶴川 宗俊	道徳	どれい解放の父・リンカーン	A棟3階
6年2組	緒方 美菜子 松岡 留美子	音楽	ふしの重なり合いを味わおう	A棟3階 音楽室
ひまわり	米山 亜矢	国語	3年 こんなお話考えた 5年 へんとつくり	A棟2階
日本語	肥後 初子	初期 指導	・歯をみがいてねます。 ・いいにおいがする。	A棟3階 日本語
日本語	久木田 小真紀	教科 補充	教科書を読もう	B棟3階 日本語
日本語	荻迫 瑞恵	初期 指導	助詞の使い方	A棟3階 日本語
ことばの教室	宮内 まり子	自立 活動	発音の誤りの指導 (シ・ジ・チの区み)	B棟2階
ことばの教室	羽生 博文	自立 活動	発音の誤りの指導 (キ音の歪み)	B棟2階

7 分科会協議内容

(1) 生徒指導部会

ア 携帯電話について（中学校より）

- ・ 携帯電話の取り扱いをPTAで話し合っしてほしい。
- ・ 中学校の携帯所持率 約50%（小学校のころから所持している。）
→携帯でのトラブル，ネットいじめ（他校とも起こっている）

イ 忘れ物について

- ・ 家庭との連携が必要。

ウ 言葉遣いについて

- ・ 敬語の使い方を指導する必要がある。（大人と友だち口調で話す子がいる。）
→立場の違いを理解させる必要がある。

- ・ 相手を傷つける心無い言葉→トラブルが幼稚化

エ 身なりについて

- ・ シャツ出しが多く，随時声かけ指導をしている。
→小・中間での指導のギャップをなくすことで共通理解

◎ 発達段階に応じた生徒指導が必要である。思春期を迎える中学校でも基礎がしっかりしていれば大丈夫である。

〈指導助言〉

- ・ 小学生と中学生のギャップは，お互いの現状を語り合っ，どうスムーズにつなぐかを考えていく会にして連携していく必要がある。
- ・ 中学校1年生の授業を見に行く。
- ・ 悪いところを出し合うのではなく，子どもがよりよくなるような会に。

(2) 学習指導部会

ア 学習のしつけについて

- ・ 「学習するときの約束」「授業の受け方十カ条」「学習の手引き」等を作成して共通実践している。

イ 読書指導について

- ・ 「全校一斉読書」「読書タイム」等に取り組むことによって，読む力が付くだけでなく，落ち着いた雰囲気づくりにもなっている。

ウ 学力検査からの分析について

- ・ 標準学力検査の分析を行い，個々の課題や全体の傾向の把握，課題改善の具体策，指導方法の改善を進めている。
- ・ 諸学力検査分析を生かして，各教科で学習指導の工夫に取り組んでいる学校もあった。

エ 家庭学習の充実について

- ・ 家庭学習の手引きの作成。
- ・ 家庭学習の見届け，やり直しの徹底。
- ・ シールの配付やスタンプを押すなど，子どもの意欲を高めるような工夫を行っている。

(3) 全体会

ア 学習のしつけについての確認

イ 服装についての問題点の確認（小学校間）

ウ 携帯電話の所持について 親→安全目的

子→最強のおもちゃ 親子の認識のずれ

〈講評〉

- ・ 中1ギャップ，小1プロブレムの円滑な移行について
ギャップ→学習の分量，教授スタイルの変化，スピード
- ・ 学習指導，規範意識，家庭への働きかけ，発達課題について，共通の意識で指導する。